

開催記録

| | |
|--|--|
| 名 称 | 第3回会津美里町教育振興計画策定委員会 |
| 開催日時 | 令和7年9月22日（月）午後6時00分から午後7時45分 |
| 開催場所 | 本庁舎 2階 大会議室 |
| 出席者 | 委員別紙名簿のとおり（No.6 委員欠席） 事務局 歌川教育長、猪俣こども教育課長、小林生涯学習課長、 上野主幹兼指導主事兼教育相談室長、國分こども教育課長補佐、 馬場生涯学習課長補佐兼公民館長兼図書館長 |
| 議 題 | 第4期教育振興基本計画（素案）について ・これまでの取組と今後の方向性について ・施策の体系と展開について ・施策の指標（案）について |
| 資料の名称 | 教育振興基本計画策定について |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録 |
| 内容 | |
| 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 協議（座長：渡部委員長） <p style="margin-left: 2em;">第4期教育振興基本計画（素案）について</p> <p style="margin-left: 2em;">(1) これまでの取組と今後の方向性について</p> <p style="margin-left: 2em;">(2) 施策の体系と展開について</p> <p style="margin-left: 2em;">(3) 施策の指標（案）について</p> <p style="margin-left: 2em;">(4) その他</p> <p>【説明者：事務局（上野主幹兼指導主事兼教育相談室長・馬場生涯学習課長補佐兼公民館長兼図書館長）】</p> <p>説明者より、会議資料に基づき（1）について説明</p> <p>（委員長）委員の皆様方ご質問やご意見等ございますでしょうか。</p> <p>（委員）よろしいですか。1ページの文言の中で、文字が抜けていたりするものがあるので</p> | |

すから、ここはしっかりとおかないといけないと思いますので、確認したといいます。

(8) の学校教育施設設備の充実の①は、学校等となり等が入るのではないか。それから④がこれ太字になってるのだけどこれは間違いですよね。

(事務局) はい。

(委員) それから生涯学習の充実の(1)家庭教育の推進の③「みさと運動の充実と普及・啓発」というふうになってますので、合わした方が良いのではというのが1点と、内容の検討はこの委員会でやんないですよね。時間がないからね。

(事務局) はい。

(委員) 句読点とか、それから表記の統一。例えば児童生徒に「・」が入ってるのと入っていないのが混在してるので、そこら辺の統一をした方がいいかなというふうに思いました。それから、生涯学習の方は、今後の課題が書いてないのもありますし、それから昨年度のものだなっていう内容が二つ残っているので、そこら辺の検討が必要かなということと、今後の方向性が全て体言止めになってるのに、用言止めになっているところもあるので、そこら辺の検討はやはり課題にしておかないと、その整合性、統一性が図れてないなというふうに感じましたので、検討した方がよろしいんじゃないかなというふうに思います。

(委員長) 今のご指摘の点は事務局如何ですか。

(事務局) はい。再度事務局で表現、表記、それから形式というようなところで、今後の方向性を体現止めにし、ご指摘いただいたものを再度点検して修正させていただければというふうに思います。

(委員長) 他の委員の方々、ご意見如何でしょうか。

(委員) 今後の方向性という部分で、それぞれの今後はっていうところが、下の「今後の方向性」に要約されて行って、今後の方向性っていう中から、次年度のキーワードの所に整合性が出てくるととても良いなというふうに感じています。

(委員長) 事務局からは。

(事務局) ありがとうございます。なお本日メインでお願いするような形になる、まさに施策の具体的な中身で出てくるキーワード等々についても、もしかしたら今後の方向性というような形で、こちらの方に追記させていただくような中身も出てくるのかなと思っておりますので、その辺り踏まえながら修正させていただければというふうに思います。

(委員長) よろしいでしょうか。他の委員の方々、ご関係のところをご覧いただいて何かご意見等ご質問等あればお願いできればと思います。

(委員) よろしいですか。皆さんお話をされたこともあるんですけども、文言として引き続きというのと、その今後もという処理の仕方、意図的にどういうふうに使うというのが説明いただければ大変ありがたいと思います。引き続きとは継続して同じような形で入るこれもというのは、それをもっと強化していくとか、充足していくとか。そういう捉え方でよろしいですか。

(事務局) この辺り生涯学習課と連携取りながらこども教育課と生涯学習課、同じ形で統

一した形でお示しできるといいのかなと思いますので、その辺りも含めて修正の方向で進めさせていただければというふうに思います。

(委員) 例えはですね何が言いたいかっていうと、その正式な固有名詞といいますか、それをどこまで掌握してるかっていうことで、例えば、21 ページにありますように①の「引き続き、地域スポーツクラブ」とは、これ何を指しているのか。多分これが「クラブ衆」だったらこの地域スポーツクラブという形でいいのかどうかっていうことと、あと 25 ページの例えは①の中の文化団体なのか協会なのか、この辺整理した方が良いのかなと思ってましたので、述べさせていただきました。

(事務局) ありがとうございます。正しい正式な語句が使われているかどうか再考します。

(委員長) 他に何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。いくつかご意見等いただきまして委員の皆さんありがとうございました。今後も引き続きというようなところで、これから文言の整理等いただけるということですので準備をどうぞよろしくお願ひします。専門用語についても、ご指摘いただきましたので、その辺り整理いただければと思います。他にご意見等ございませんでしょうか。

(委員) いいですか。5 ページの③のところなんですが、これでいいと思うんですけど、「児童期から 15 歳までの見通し」を見通して、15 歳は中学卒業なんですよね。こういう表現するんですね。

(教育長) 別な表現だと「義務教育終了段階まで」

(委員) その方が良いかなと思います。

(事務局) 背後関係が確かに年齢等変わってくるので、修正をさせていただければと思います。

(委員長) よろしいでしょうか。では(1)のところについてはご意見等いただきましたので、ご修正いただいて次回、お示しいただければと思います。では 2 番目に進ませていただきたいと思います。「(2) 施策の体系と展開について」資料 2 の説明を事務局よろしくお願ひいたします。

説明者より、会議資料 2 に基づき(2)について説明

(委員長) ありがとうございます。前回の委員会でご指摘いただいたと思いますが、教えていただいた委員の皆様方、文言修正いただきましたが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(委員) 「子ども教育の充実」で、新しく「本郷こども園の整備」が入ったんですが、これは本郷こども園だけなんですかね。それが 1 つと、これ 5 年間かかるのか 5 年をかけるのか。二つ目は 3 の地域文化の振興の(3)は、これ「歴史・文化」というふうに表記したと思うんですが。「・」が入った方がいいのかなということと、(2)(3)(4)が施策が 1 個ずつなのですが、これは意図的なのかこれだけなのか。他の基本施策とのバランスを考えたときに、果たしてこれでいいのかなという。3 点ですか。質問させてください。

(事務局) ここの③に改めて本郷こども園のみ入れさせていただいたところは、これから

整備というよりも新たに作り変えていくというようなところで、非常に大きなプロジェクトになっておりますので、(3)の学校等の施設の通常の整備とは異なりものになるのかなというようなことで入れさせていただいたところでございます。それから2点目の5年間かけてというようなところは、これはこれから進捗状況に関わるところがあると思いますので、現時点ではつきり明確にお示しできないところかなと考えております。

(委員) 現段階でどういうふうに整理する方向で考えてるんですか。

(教育長) 今基本構想がほぼ出来上がりまして、これ本郷こども園だけです。本郷こども園の老朽化を受けて、移転新築の形で今考えておりまして、タイムスケジュールから多分この基本計画の5年分ぐらいかかるのではというふうな想定で今いるところであります。

(事務局) 「(3) 地域文化の振興」の(3)の歴史文化の「・」のところが抜けてしまって大変申し訳ございませんでした。こちら修正いたします。ご質問のそれぞれの項目について施策が一つではないのかというご質問だったんですけども、こちらの方でそれぞれに対応する事業がございますので、1個1個っていうのがある程度の意図的な部分ではございます。

(委員) このままで行くのか。

(事務局) 一応このままで進めていきたいなというふうに考えてます。

(教育長) ご意見をいただいて検討する必要があるように思いますね。郷土資料館の部分も「無形民俗文化財の保存活動」と書いてあるがこれだけではないので、ご意見いただかないといけない。ちょっとミスマッチかなと感じます。むしろこれが(4)の文化財の保存と地域文化の継承にかかる部分も大きいのかなと思うんですね。

(委員) 質問なんですが、その前回基本施策に関しては、その大元のものが決まっているのでいじれないというようなお話だったかと思うんですが、これはいじっても大丈夫な部分になったのでしょうか。

(教育長) 基本的にいじれないんです。ただ、ご意見いただいた通り、郷土資料館の活用というような特に異質な表現だったので、特定の施設名だけだなというので、それを少し緩和した表現の方がいいだろうということで、何とかここだけを直してほしいというふうな要望を出して直していただける方向でいるんですが、ちょっと他は難しい段階で今実際にパブリックコメントを実施しての段階でこれ以上は難しい段階とか思います。

(委員) ありがとうございました。

(事務局) 施策の部分については、最初にも申し上げましたように皆様からのご意見いただいた後、さらに追加したりとかそういう修正可能というふうに思ってございます。実際に2ページ以降にこれまで入っていったようなキーワードであったり、あるいは新たな課題というようなところも踏まえて、キーワードの方をこちらで想定できるものを挙げさせていただいたところではあるんですが、皆様方の専門的な部分からさらにもっとこういったことをやったらしいのではないかなというようなご意見を本日それぞれいただければなというふうに考えてございます。

(委員長) 皆様いかがでしょう。今は施策の部分についての案を出して良いということでよろしいですか。

(事務局) 可能であれば、例えば基本施策の 1 それぞれを一つずつ皆様からいろいろご意見頂戴して進めていただければありがたいなというふうに思ってございます。

(委員長) 1 の子ども教育の充実についてということでお聞きすれば良いですか。では委員の皆様方、資料 2 の第 4 期計画の体系図案下の 1 子ども教育の充実のところで委員の皆様方ご意見等いただける人はお願ひしたいと思います。

(事務局) 失礼しました。その中身が 2 ページ以降キーワードで挙げさせていただいているので、それぞれの基本施策 1、2、3、4 の順でご意見いただければというふうに考えておりました。

(委員長) では 2 ページ目の、Ⅱ施策展開の 1 子ども教育の充実、以下のところの基本施策 1 の①②③④とございますが、ここにあるキーワードについてということですので、委員の皆様方、ご覧いただいて、ご意見をお願いします。

(委員) 質問いいですか。各基本政策の中で、その下に基本目標 1、2、3、4 とありますよね。これは、前のをそのまま踏襲するんですか。それとも基本目標も変わるんですか。

(教育長) 基本目標は、例えば基本施策 1 の「①園・小・中学校連携の強化」であります。その下にキーワードが並べてございますけども、このキーワードを並び替えて基本目標を作るということになってくるわけです。

(委員) なるほど。これは新しく作るんですね今日も。

(教育長) もちろんです。新しく作りますので、そのための内容として、こんなキーワードを盛り込みたい例として挙げているわけなんです。

(委員) 次期の計画の基本目標は 3 つになる訳ですね。

(教育長) 基本目標は今のところこのままの提案ということなんんですけども、変えることも可能ですからそこはご指摘いただければ、新たなものを盛り込んだり削ったりっていうのは可能だと思います。

(委員) 6 ページの「生涯学習・スポーツの充実」で基本目標 2、3 とあるが、今までの計画目標だったので、ここは当然変えなくちゃいけないと思っております。そして 8 ページの「4 地域文化の振興」となってますけど、これは 3 ですよね。これ間違いますよね。

(事務局) 失礼しました。これ間違っています。

(委員) 基本目標はこれから検討するっていうことですね。

(事務局) はい。

(委員) わかりました。

(委員) 基本施策 1 の幼児期からの一貫した学びの基礎力っていうのはどういうふうにイメージで捉えているのか教えていただければありがたいんですが。

(教育長) はい。プロジェクトの中で捉えているのは大きく二つありますて、一つは非認知能力、いわゆる生きる力といいますか、それからもう一つは、幼少期から一貫して読解

力の育成ということで考えている所でございます。その他にも要素がたくさんあるわけなんんですけど、健康面であったりですね。

(委員) 一番最初質問をしたんですが、資料 1 の今後の方向性そこに示された中身というのは、こちらの方にどの程度反映してくるのか。キーワードが盛り込まれてくるのか。若しくはそれを踏まえてこういうことをやりたいんだっていう形でキーワードは少し距離を置いた形で選定されているのかっていう辺りをちょっとお聞きしたいと思います。

(事務局) 現時点では完璧にリンクしてるっていうようなところまでは行っていないのは実際のところでございます。先ほど申し上げたその辺りも含めてご意見いただいたことが今後の方向性の中に修正されていくって、その辺りの整合性っていうのを図っていく必要があるものというふうに考えております。

(教育長) 内容的には多分リンクがされている部分だと思うんですが、出てくる施策の名前だったり事業名だったり、そういうところがより細かいものが出ておりますので、その辺は新たななものに、次期のものに名前として直接出てくるものと出てこないものがあるというご理解をいただきたいなとは思います。

(委員) ありがとうございました。本当に細かいところ 1 点で、基本施策 1 の③の中のキーワードで「立志式」とあるが。

(事務局) すみません。前回の施策の中で出てきていたものをそのまま抜き出させていただいたところで、私自身が正直に完全に把握していないので、各学校さんで立志式がどの程度どのような形でということも含めて実際に実施されているかどうか、今後どうしていくかっていうようなことも含めて確認していく必要があるかなというふうに考えてございました。

(委員) 今はもうやっていない。

(事務局) あくまでも前回の中で重視されて載っていたものなので、どこまでかは継続されてきたもの。ただ今はなくなっていてその理由があるのであれば、あえて復活しなければいけないものではないかと思いますので、現在その実情に合わせてまたそれも復活すべきなかすべきじゃないのかなっていうことも踏まえてご意見いただいた上でになるのかとは思うんですが、学校現場からするとかなり難しいのではないかなというふうに思いますので、すみませんが素直にカットさせていただくというような方向でよろしいのかなと思うのですが。

(教育長) 以前教育委員会からしっかりやってくれっていうふうなお願いをしてたんですが、悉皆であっても学校の特性におまかせしますということで、令和 4 年度から少しトンダウンさせてきたところです。多分現在はやっている中学校はなくなっているんだろうと思います。

(委員) 標記で薄くなってるところが新しく加えたものと理解していいですよね。

(事務局) そうです。カラーで印刷できなかったので、薄くなっているところ赤字で実は入れさせていただいたようなところなので、前回の中でこちらの方に載っていなかった今

後必要であろう、実際に現在行われているだろうというようなものを入れさせていただいたところでございます。

(委員) ①の園小連携のところなんですけれども、友達との関わりってことでキーワードが挙がってるんですけど、なんで友達との関わりだけを取り上げたのかなっていうのがあって、ではどういう言葉が適切かなと考えたときに、園は遊びの中の学びとか、育ちの連續性っていうところを大事にして、言葉をどうしていこうかと思ったときに、遊びと学びを繋ぐとかの方が適切なのかなっていうふうに思いました。細かいことを言うと、なぜ5歳児は三つの領域であったり、それ以降は5領域であったりっていうところでやっているので、社会性だけを取り上げるのではなくて、そういう言葉にした方がいいかなと思いました。あとその次の認知機能の強化っていうのはどうなのかなと思って、その非認知能力の間違いではなく、あえて認知能力にしたっていうのは、例えば、その下にある幼児期の終わりに育ってほしい10の姿の具現化って書いてあるんですけども、10の姿は、到達目標ではなくて、方向性というふうになっています。それは遊びや生活を通して育んでいくものということで私達は解釈しています。なので、その10の姿の中に、多分認知能力は育っていると思うんですね。だからここに認知機能の強化って入っているのかなと思ったのですけど。あとは、10の姿の具現化っていうよりは10の姿を繋げていくための具現化っていう言葉の方が合っているのかなと思ったのでちょっとお話をさせていただきました。

(事務局) ありがとうございます。まさに事務局の方で入れさせていただいたところでしたので、そういうご意見いただければというふうに思います。担当の思いとしましては、特に園小連携というようなところで行くと、5歳児と1年生というようなところの繋がりの中で、やはり今、人と関わり方が苦手だというような子供だけではないんですけど、そういう関わりが必要になってくるのかなと思ったところはございます。特に今ほどありましたように、3歳児とか4歳児とかではなくて、5歳児になってちょっと出てくるところが他者との関わりというようなところ、それはプログラムなどの方でもそういうところを入れさせていただいて昨年作らせていただいたかななんて思って、ちょっとこのあたりは特出ししてもいいのかななんて思ったところがございます。それから認知機能の部分は、小学校の低学年においてコグトレというようなところを行っておりまして、数を数えたりとか、物を覚えたりとかっていうようなことをオンラインでできるような形で実施しているものなので、これは園というよりも、小学校において行っていただくことで繋がっていくかなというようなことで書かせていただいたものでございました。三つ目の幼児期の終わりまでに育ってほしいというようなところは、おっしゃられたように実際に必ず成し遂げなければいけないというものではないと思いますので、繋げていくためのというようなところを入れさせていただくのと、ここもちょっと括弧書きさせていただいたのは、そのための手立てってまで書いていいのかっていうと、いやそうではないだろうなっていうところはちょっと感じてはいたところではあったので。ただなるべくぼやけない形で町

の方針であつたり施策だつたりっていうのを決められるといいのかなって思ったので、少し入れさせていただいたというようなところではございました。この辺りも含めてご意見いただければなと思います。

(委員長) 委員がおっしゃった通りかなと思うところが多いので、すごく進め方をどうしたらいいのかなと思いながら、今言ったんですが本当に幸いご指摘の通りではあるので、言葉の使い方とか、途中事務局もおっしゃってましたけど、これが小学校の方に何かウェイトがあるのか幼稚園の方にウェイトがあるのかっていう所で変わってくるのかなと思うので、やはり委員もおっしゃっていただいたように、ご提案いただいてキーワードを入れた方がより現実的になるっていうか実際の取り組まれてる形なのかなと思って私も聞いていたんですが。特に遊びと学びを繋ぐようなお話なんかもおっしゃってる通りなのかなと思うので、その辺りを小学校と同時に繋いでいくかっていう遊びの中でも遊ぶイコール学びですから、私も遊びサークルを作ったのですけど学びサークルだったんだなと後で思つてですね、いうぐらいそういったところが用語の使い方とかも小学校と幼児教育と違つて部分もあるので。その辺り良いご意見、先ほどいただけたのかなと思うので、その辺りより現実的にというか、実際に実践されてると思うのでその両方を揃えていかれるといいかなと思ってお話を聞いておりました。

(事務局) ありがとうございます。ではまず上のところでは遊びと学びを繋ぐということでキーワードの方を入れさせていただいて、最終的には冊子にする際に、文章表現になっていくようなところもございますので、まさに今のような専門的な部分でまた文章化したものを見ていただいてご修正いただくようなところも出てくるかなというふうに思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

(委員長) 特に他の方々も今のやり取りとか多分なんですか、かなり幼児教育の話なので、なかなかピンときにくいところもあるんだと思うんですけど、実際に委員がおっしゃる通りなので、それを反映して文言化した方がより正確な表記というか意味合いなのかなと思うのです。他の委員の方々、いかがですか。

(委員) 非認知能力ってちょっとおっしゃっていて大きく二つあって、自己の内なる力っていうその自分に関する力と、あと人との関わる力、社会性に関する力というのがあったんです。でも詳しく言えないんですけど、その注目される意図っていうところを見たときに、そのAI時代のスキームの授業で、あるいはその教育だと社会課題への対応ということで、何が言いたいかというと、AI時代のスキームの重要性はこのAIっていう言葉がここにふさわしいかどうかわかりませんけども、そういうふうなものを言葉の必要性っていうのはどうなのかなと思ったもんですから、質問してみました。

(事務局) そうですね。生成AIも含めて通常のAIであれば教育現場で当たり前に使ってもらって構わないところなんですが、生成AIの活用の仕方については、各設置者において、市町村において方針を定めて使い方を考えるようにというようなことが示されております。正直国も使えとも使うなとも言っていないというような状況であるというような部分

で、今後 5 年間を見据えた際に、少なくとも子供たちに積極的に使わせてっていうことはならないのかなと思います。逆に先生方の働き方改革の一環の部分で、先生方の資料作りとかそういったところにうまく活用できるようであればそれでいいのかなと思っております。まさに点数とか目に見える力だけじゃなくて、実際に世の中に出で必要な力っていうようなところでは、やはり非認知能力学ぶ意欲なども含めてですけれども、そういうふた社会性人間性っていうようなものをきちんと育んでいくっていうようなところが重要なのかなというふうに思っておりますので、あえて AI 時代だからというところ皆様のご意見いただきながらというふうに思っています。

(教育長) なお AI については、ご存知の通り国において次期学習指導要領の検討に入ってるわけなんですけども、諮問の中でもですね、結局生成 AI がこれだけ浸透している状況の中での外国語教育のあり方とか具体的に示す中身があります。ですからもし入れるとすれば今後國の方針がどう出るかわかりませんが、基本施策 2 の③の「ICT の活用による学びの推進」とかそういうところに入ってくるかどうかっていうようなものなのかなというふうに思っているところであります。

(委員長) 冒頭でも話したのですが、今教育長がおっしゃった通りで、今検討されてる最中でなかなかタイミング的におっしゃる通りどこまで入れるかっていう難しいところなのかなと思います。私も今日、プログラミングの生成 AI を使って自動で作っていくみたいな単純なプログラマーはいらなくなるんだみたいな記事を読んだりとかですね、そういうことなんかも進んでちょっと今、みなさんおっしゃったように、完全に整理されたり体系化されてるわけではないので、今進行中のような私のイメージなので、ちょっとこの時期にどこまで入れるかっていうのはちょっと難しいのかなっていうような印象を今日来るところでも思ってきたんですけども、教育長がおっしゃったような ICT の活用だとかそういうところになるのかなと。

(教育長) 実際どこでもそうですけども、さっき言った基本施策 2 の③にあるドリル等の活用というのは、実際にはこれも AI のドリルを活用しておりますので、あとは実際に英語教育とかの中で AI アバターによる英語学習とか、多分そのようなのがそのうち出てくるんだとは思うんですけど、振興基本計画の中にまともにまた出す段階でまだそうではないような気がしました。

(委員) 分かりました。

(委員長) 非常に難しいところではあります。私も幼児教育の方にいる者ですから、英語教育とか外国の教育がどこまでこれから必要になってくるかとかって非常に難しい、翻訳の方とかもできて本当に読解力、教育長も先ほどおっしゃったように読解力非常に重要ですけども、一方で大学入試とか入試の方だと読書感想文が一番要らないっていうのは、報道でもあって、代理業者に頼んだりしてるんだって言うんです。試験科目がないのでっていうことなんかも、都会の方だと言われてしまってるようなんですね全くそうは思わないんですが、しかし今の入試制度でいきますと、そこが一番不要だっていう考えもあるところ

なので、この辺りは町のお考えを入れていただいて、読解力私の所の学生なんかでも、やっぱり読んだり書く力とか、日本語でですねそれが一番重要かなと私自身思ってるんですけども、その辺りの町としてどのように基本計画に組み込んでいくのかっていうところが皆様方のご意見をいただきながら、ご検討いただいた方がいいのかなと思います。他の委員の方々いかがでしょうか。

(委員) いいですか。②確かな学力の育成の中で、授業改善の（主体的・対話的で深い学び）、この文言は改訂学習指導要領でもこれ継続されて使用されるんですかね。

(事務局) 最後、答申の形で出てくるかどうかですが、ただ基本的な考え方方に立つものではあるのかなというふうに思います。やはり前回の学習指導要領改訂の中で、これを中心に据えて行ったところでございましたので、これが新しい学習指導要領の中で、この要素が全く消えるかというと、そこは消えないのではないかなと思っています。

(委員) いつできる予定ですか、改定学習指導要領は。

(教育長) 中央教育審議会の答申が来年でまして、そしてその後で編成作業にかかりますから。

(委員) 2.3 年かかるのですね。

(教育長) ただ、答申の中でも現行学習指導要領の中身について、学力感であったり、今話題にされた主体的に対応できる深い学びの理解と、現場での実践が不十分だと総括の中で反省がされていますので、ですから大元はそのまま引き継がれるという理解で、多分誰もがいると思うんですが、それをより理解しやすい、実践しやすいものに変えていかなければならぬっていう反省に立って継続する方向ではあるように聞いています。

(委員) 文言自体が。

(教育長) 文言自体がそのまま出るかどうかはちょっとまだクエスチョンですけど、現行学習指導要領の理念はそのまま引き継ぐだと思うんですが。

(委員) 理念は分かるのですが、この文言とかキーワードとかをこの 5 年、美里町の教育の中に入れて差し支えないのかな。もし途中で変わっちゃって、そのときは変えるしかないわけじょ。

(教育長) 勿論そうですね。

(委員) だからどう何でしょうね。理念としては当然継続されるというのは分かりますけど、どのような文言を入れておいた方がいいのかな。

(教育長) 決まり文句として、これはちょっと流行しすぎたとこあるんですけど、ただ主体的な授業を作るのは当たり前ですし、それから対話的な授業も当然当たり前ですし、ですから、キーワードとしては私は内容的には問題ないというふうに思ってはいます。

(委員) よろしいですか。そこに最近個別の成果ってなってますよね。そこが今まで含まれただけだったのに、その個別の成果も 1 人 1 人という個別性もあるので。

(教育長) 個別最適な学びについては、そこも含めたいところなんですが 3 ページにあります基本施策 2 のところで、学びのセーフティネットとか様々なところで、個に応じた学

びとかないと入れていくしかないのかなと思ってます。当然確かな学力を作るためには、個別最適な学び、当然必要なわけなんですが子供たちの多様性に対応しながら学びの環境を整えるというのは、不登校も含め大変なんですが、特別支援教育も含めてですね。

(委員長) 半端な伝え方であるのかもしれないんですけど、完全実施なのは 2030 年なので、幼稚教育とかが先行してやるものですから、なので移行期間が間にがあるので大丈夫ではないかと思います。おっしゃるように追加の文言とかも入っているかと思うので、それも対応いただいているというところなので、はい。

(委員) 違う視点で。今予算取りがされてる施策というものは、多分踏襲していくと思われる所以、そういうもののキーワードっていうのは当然入ってくるかと思うんですが、例えば読解力リーディングスキルみたいなもので、今回のキーワードからは、落ちていて、それは、今後施策の予算がついたものからは外れていく予定なのか、続けていくのかという辺りはどうなんでしょう。

(事務局) はい。検証しながら進めていかなければいけないものというふうには考えております。教育長からもありましたけど読解力の育成というような視点では、まさにリーディングスキルというのは学校教育の中でというか、実際には子ども教育の中にはまだ完全に入ってはいないんですけども、非常に大きな進歩なのかなと思っているところではございます。ただ予算の問題であったり、対象学年が中学 1 年生だけみたいなところも含めて、どこまで入れるべきかなというようなところはちょっと考えたところでございました。ただ、町としては校長先生方に学習状況向上委員会の中で、リーディングスキル部会作っていただきしておりますので、文言として上げることは可能かなというふうに思っております。

(委員) 今後予算取りを続けていく。それから地域ごとのキーワードは、やはり網羅しておいたほうがいいんじゃないかと思います。

(事務局) ありがとうございます。今のご意見踏まえてリーディングスキルという文言も入れて行きたいというふうに思います。

(委員) 4 ページについていいですか。基本施策 3 の①のキーワードに本郷こども園の整備とあるのですが。

(事務局) 失礼しました。前回から修正不十分でございました。これ取り出させていただいたので、修正させていただければと思います。

(委員) そうですよね。5 ページの基本施策 5 の③は、「本郷こども園の整備」、そして基本施策 5 は、「幼児教育・保育環境の充実」になりますね。

(事務局) はい。そのようになります。

(委員) 本郷こども園の整備というところで、説明でハードウェアのところでっていうことがあったんですけども、この施策 5 の幼児教育の充実のところに、本郷こども園の整備事業がくると、本郷こども園だけが特化した何か幼児教育をするのかっていうふうに私はちょっと捉えてしまって、ここはどういう形で認識すればいいのかなと思います。

(教育長) ソフト的には多分基本施策⑤の①のところで、全ての園でっていうようなことで吸収できると思います。このハード的な部分は、なかなか予算絡みもあるんで、本郷子ども園の名前を消すとどこでやるんだって話になりますので、ここは入れざるを得ないのかなというところですかね。

(委員) 要望なのですが7ページの基本施策②「子どもの良好な成育環境の確保」にキーワードとして、前回も何がいいだろうということで考えたのですが、ここに「みさと運動」を入れた方がいいんじゃないかなというふうに感じているのですが、どうですか。

(事務局) ぜひ委員の皆様でご意見いただきたい。

(委員) 関連してなんですけど、先日小学校2年生の授業に会津短大の学生が来てくださいました。それが全部美里町出身の方だったんですけど、帰り際にスリッパを並べてくださり「そのままでいいですよ」とお声掛けをしたときに、「いや、小さい頃みさと運動で履物そろえの教えて」それが4人が4人揃って綺麗に並べていってくれたのはこの教えなんだろうなと、こういうことが継続されてるなっていうのはちょっと感じた次第です。

(教育長) 町の青少年育成会議の中で、結局進めているわけなんんですけども、担当課生涯学習課も一部担っているところでやっているのですが、なかなかその地域全体で取り組みがちょっと今トーンダウンしてる感じがするんですね。学校だけでやっているっていうような状況があったり、確かに子どもたちを見てると、学校の中ではちゃんとやってるんですよね。ところがうちに帰るとなかなかその通りできないっていう部分があって、親御さんの評価なんか見るとですね、学校評価の中であんまりポイント高くないですよね。返事しますかとか挨拶しますかとか履物を揃えてますかとか、何か地域の方にも子どもたちも最近は挨拶がいいとかっていう声も聞くんですけど大人の方がやってらっしゃるのかと言ったらやってないんじゃないかなと思ったりするんですよね。大人の方が子どもに声をかけると不審者扱いされたりして、なかなか難しい状況があるんですね。やるとすると、本当に町全体で挙げてやるような状況でも私はいいと思うんですが、子どもたちに対するというよりは、本当に何て言うんすかね、町民全体で進めていきましょうっていうふうに盛り上げていかないとあんまり意味がないことなのかなと思ったりもします。学校の中では結構やってらっしゃるので、対象が子どもというふうに限定すると、十分やってますよっていう感じなんですが、子どもは良好なのですからね。ですからその子どもの良好な成育環境の確保の中に実は大人の声かけといいますかね、大人が見本を見せるとか、そういう意味合いでも、子どもの成育環境の中、私は意味があるもんだなと思う。

(委員) 親教育ですね。

(委員) 放課後こども教室をやっているのですが、うちは新鶴なんですよ。新鶴にお嫁に来て知らない中学生が「こんなにちは」って挨拶されてすごいなと思ったのが第1印象だったんですけど、実際自分の子どもたちがみさと運動に入ったときに先生がおっしゃったように、私はあまりアンケートもいいことを書いたことはないですね。例えば部活で見たときに、野球部の子はやっぱり挨拶がいい。バレーボールも挨拶がいい。バドミントンはどうな

のかとか、学校でみさと運動をやってもらっていますけど、やってるとことやつていいないと
ことがあると思うんですよ。履物もやっぱりその子によるし、学校で怒られるから揃えると
か思うんですよね。今教育長がおっしゃったように、変に声かけると、何か不審者だと思
われる所以、本当難しいところだなと思うんです。挨拶はどこに行っても基本だし、挨拶
をしなくてはいけない場所で挨拶って欲しいところなんだなと思っていて、誰彼構わず「こ
んにちはこんにちは」やってると本当に今の時代にそぐわないので、自然に「こんにちは」
って言えるような子供たちが育ってもらいたいなっていと思いました。やるならばしっかりと
地域全体でとお話を聞いてそう思いました。

(教育長) おっしゃる通りですよね。どうですか生涯学習課。

(事務局) 「返事・挨拶」とかはそれを返すとかっていうのは、ごくごく自然なことだった
かなというふうに思います。みさと運動が、始まる前に私も中学生のときに担任の先生か
ら履物そろえを言われたのをすごく覚えてて、今でもやっています。その時その時になんて
そうやらなきやいけないのっていうのがしっかり教えてやると、それは一生ものの美德と
して身につくのかなというふうには思います。勿論声かけとか「こんにちは」って挨拶も
そうですけども、それは言われたからやるんじゃなくてそういう意味で、感謝するよとか、
感謝してますとかっていうことを、ちゃんと教えることが大事なのかなというふうに思
います。

(委員) 私は商売をやってるものですから、毎日店の前を歩いている子とか近所の子でも
みんな結構「ただいま」と言ったら「おかえりね」って挨拶するんですけど、そんな感じ
で結構挨拶できるなって思って見てるんです。

(委員) 何処どこ市の「なんとか宣言」みたいに、美里のなんていうか少し骨の通ったア
イデンティティみたいな部分に育ってるんじゃないかなっていうのが純粋に思ってるところ
があって、小さな子たちがそういった教えとかを教えていただきながら大きくなると、
それこそ大人でそういうことをやってきましたっていう町民も育つっていう側面もあるの
かななんていうふうには思ったりしました。

(教育長) 大事ですよね。多分なんで落としたかというとですね、ちょっと知恵が足りない
ところもあるんですが、みさと運動を具体的な生涯学習課事業に降ろしにくいっていう
のが少しありまして、じゃあ何をやったら町民全体に返事できるように、挨拶できること
に履物を揃えるようにできるだろうっていう、予算を付けて一体なにやるんだってね。一
回一回点検するわけにはいかないし、なかなか難しい。せいぜい目に見える掲示物作って
また配置するとかそのぐらいしかできないみたいなところもあってですね、そこはちょ
と知恵を絞るってことで、みさと運動が大事だというご意見は十分いただいたと思
いますので、多分生涯学習課の方で何らかの知恵をだしていただくという事で。

(事務局) はい。

(委員長) よろしいでしょうか。他に何か意見等ございませんでしょうか。特に関連の部
分について。

(委員) 7ページの基本施策4の「生涯スポーツ推進」の中の③のキーワードに「地域課題の解決」っていうのがあるんですけども、スポーツイベントをしようとしても、地域によって参加してくださる人数が全然違ったり、そもそもそのイベントをやらないって決めてる地域があったり、いろいろなんんですけどそういうのをどういうふうにして解決するつもりなのか、つもりというのは変ですけど何かお考えがあるのかなと。ただここにこう書いてあるだけでは具体的な活動内容がないと解決しないと思うんですね。その辺はどういうふうに考えていらっしゃるのか聞きたいなと思ったんですけど。

(事務局) 今おっしゃられるように、ちょっと前のいわゆるコロナ禍、コロナの関係でずいぶんイベントを自粛していて、それから「今度復活させようよ」「もう一度やり始めようよ」っていう機運が正直かなり落ちてるところがあります。もちろん地域的な差はございますけど。ただ生涯学習課の方で指導員とかが中心になりますて、その地域の中の主要な方に「もう少しこれをやってみましょうよ」と声掛けし入って行って「また少しずつ復活させていきましょう」っていうのがいくつか事例が出てきましたので、何もしないでただもう地域も何の活性化もない楽しみもない交流もないっていうところから、一つのスポーツ活動を通じて、その交流であったり、中が少し活性化するっていう意味合いで地域課題っていうところに少しそここの問題に入り込むよっていう意味合いで「地域課題の解決」っていうのがキーワードに出させてもらいました。

(委員長) 他にございますでしょうか。

(委員) ⑤のスポーツ交流促進で、今までいわゆる「ふれあいウォーク」で、全国とは言いませんけれども、県内各地からお呼びしたそういう交流のイベントがあった一方で、子どもたちが姉妹都市である檜葉町と交流をしているわけなんですけども、今回ふれあいの森運動公園陸上競技場改修にあたって、大きなイベントはなくなった。各地域地域でのいわゆるちょっとしたイベントをするわけなんですけど、「交流の促進」のその「交流」っていうのをどういう形で復活させるのか。そこをちょっとですね、未来像になってしまふんですけどその辺のお考えなのかっていうことをお聞きしたいなと思います。極端に言うと、ふれあいウォークを復活させそれを交流事業で捉えるのか。結構他の方から「今年やるのかやらないのか」といったそういうオーダーがあったものですから、それをどういう形でこれからのお未来についてお考えをお聞きしたいと思いました。

(事務局) 檜葉町からウォーキングとかのお誘いもクラブ衆さんを通じてあります。そこでスポーツの交流ということで町民同士がお互い仲良くなり、そこまでかなり醸成するというのが本当の未来像になってしまふんですけども、その中で、相手のいいところを取り入れたりこっち側の方から良い部分がありますよっていうことで、少しでも交流が始まつてもらえばそれは嬉しいことなのかなというふうに思っています。二つ目のウォーキングなんですけどもちょうど今、ふれあいの森運動公園が工事にに入っているので、今年は今の時期の開催は難しいとしたとこですけども、来年のウォーキングに関しても色々なご意見をいただきながら、どうするのか、ある程度かなり大きな事業になりますので、マンパ

ワーだったり、地域のどこまでの方の協力ができるのかなという同レベルの開催ができるのかなっていうことをご意見伺いながら話していければなというふうに思ってます。

(教育長) ふれあいの森陸上競技場も更新をしてるわけですけども、全天候型のトラックとなり活用という段階になったときに、その交流人口の増加っていうことを含めてウォーキングなのかランニングなんか駆伝なのかわかりませんけど、そういうものはどんどん開催していくべきだと思いますし、加えて町民のその健康作りの拠点としての何かソフトウェアを開発していかなければならない。みんな集って例えばちょっととしたトレッキングをしたりとかですね、様々な健康作りのための活用というような部分では、やはりここにもう少しキーワードを含めていく必要はあるのかなとは思います。

(委員) スポーツ少年団とかそういうものについては、例えば文言として、生涯スポーツの推進で幼少期からずっと続けることによって、生涯スポーツを続けるものが必要だと思うので、どの位置にあるのかなっていうのと、あと今、スポーツの人のやる見る支えるっていう形でスポーツが展開しておりますけども、それがスポーツイベントの中に入ると思うんですが、それこそスポ少という部分とあと個人的な学校、例えばスポーツ推進委員さんが出前講座としていろいろやってるわけですけども、何かそのスポーツの楽しさ、あるいはニューススポーツの面白さを伝えるべく、いわゆる幼稚園小学校あたりでやってるところは多分やってますしとかないかもしれませんけども出前講座として、小学校の何学年あたりにこういうスポーツがあるよっていう形で共有したら、スポーツ好きになるし将来的にその運動習慣もできるだろうし、何かそういう仕掛けができるかなといつも思ってるんですけども、そんなことが、なかなか検討も要りますけども学校さんの方でもですね、そういう学年行事とか、そういうものだとかにスポーツの楽しさを取り入れるようのがあればなと思うんですけど、実際学校事業とかねやっぱり余計なものになる状況にあって難しいと思いますけれども、そういう一つの子どもたちの健康あるいはその余暇の楽しみ方等々に含めてそういうのもあったらいいかなとちょっとと思いました。以上です。

(委員) 本当に出前講座なんかもスポーツ推進員でいろんな世代の方にお年寄りのグループが多いんですよね。やっぱり行くところは。いろんな世代の方に使っていただければ、もっと新しいスポーツも広められると思うし本当に体を動かす機会があるだけでも違うと思うので、ぜひお願いしたいなと思います。

(教育長) 確かに例えば放課後子供教室とかいろんな活用が考えられる。ニューススポーツの普及は基本施策④の①「スポーツ・レクリエーションの振興」あたりに入れられると思いますし、あとお話しのあったスポ少なんかは③の「地域におけるスポーツ活動の支援」あたりにも入ってこれるのかなと思いますけどね。

(委員長) 移行しやすいようなキーワード等はもっと入るといいのかなとは思っているんですが、私もこの会津地域で活動してるっていって、放課後児童クラブ行くと結構動きたいって子が多いんで、動きたくない子もいるんですけど動きたい子の方が多い。やっぱり担当されてる方々が、体力がすごい追いつかないんで「大学生相手にして」みたいな話がや

やっぱりいつも多いんですねどちらかというと。一緒に子供たちと遊べればいいよっていうか一緒に体を動かしなさいって学生には指示をしてですね、内容はもう学生に考えさせてやってるんですけども、ですから何かもねそういう機会を増やすことを皆さんいろんな方々、私がたまたま会ってる方々が体を動かすのはお得じゃない担当の方々、結構シルバーの方々がやられてるところに行くケースが多いので、なので指名されるという、運動する機会なんかもっとあればっていうのと、トータルで考えますと今日も生涯学習課の所で、健康が専門のところだと健康なまちづくりっていうところで、子どもから高齢者まで繋がって、やっぱり地域愛が多い子たちだとか、いろいろしっかり教育されてるなというところが多いんですけど、そのまま残ったときに果たして本当に健康に生活できるのかということですね。こちらの地域において。の裏付けになるようなことがしっかり施策としてもあってもいいのかなというふうには思っているので、そういったことは今後この次のレベルのところでっていうふうに思ってるんですが、そういったところがキーワードとして入れられるといいのかなというふうには思っています。子どもの方もそうですし、高齢の方も、それとまだ美里ではやってないんですけど、坂下も会津若松といろいろところで高齢の教室教室というか、介護予防にいたしましてもさせていただいているところがあるので、元々そういうといったところが浸透していくといいなと思ってるのもすごくたくさんありますので、皆様方からさらにご意見いただきて、キーワード入ってくると良いのかなと思ってるんすけど、最近幼児教育の講演も頼まれるので、最近行ったところで言ったのが、「今の目の前の子たちは 100 年生きるんですけど 100 年きちんと健康で生きれますかね」って先生方考えないと、もちろん勉強も大事なんですけど、やっぱり基本的な健康作りをしっかりやるっていうことが最後生かされていくので、やっぱりこの 100 年間ですね。2000 年生まれ以降の半数が約 100 歳超えるっていうふうに言われてるっていう話なので、そこを見据えて、やはり健康に生き続けられる町っていうことの裏付けとなるようなことが実施できるという側面を必要かなというふうに私も最近考えてるところなんで、そういったことをしっかりやれるような環境づくりというか、基本計画ができるといいなと思っております特に町民の方々からのご意見をさらに入れていただいて、より良い町になることを私も望んでいるので、そこからのご意見いただいたと思うんですがさらにご意見ございましたらお願いします。

(委員) ちょっと言っていいでしょうか。8 ページなんですけれども基本施策 1 のところの②のところ、キーワードで「無形民俗文化財の伝承者育成」と、それから基本施策 3 のところですね、「無形民俗文化財の保存活動」と保存するためには後継者を育てない限り保存にならないんで、その関係ですね、そしてこの基本施策 3 のところの郷土資料館の活用って出てきてるので、それに引きずられて「魅力ある展示」ってあると思うんですけども無形民俗文化財の展示って、画像とかお祭りの映像流すとかっていうのはわかりますけれども、ちょっといまいちピンとこないっていうアンバランスが非常に強い印象。

(教育長) ここも無形を取った方がよろしいですよね。

(委員) ですねはい。

(教育長) むしろ、施策 4 の方に「無形」けが入ってくるのかなと思うんですが。

(委員) 施策 4 のところで民族芸能って書いてあるんですが、そこをむしろ「無形民俗文化財」にしないとお祭りとか民俗行事も落ちてしまうので、その辺りの用語の整理ですかね。関連して 4 ページのところの「地域とともにある学校づくり」の③のところで「児童生徒が地域で行う活動」で「地域の伝統行事の参加」と書いてくださっているんですけども、たまたまこの前永井野甚句の練習を見に行きました、太鼓を叩いてるのが宮川小学校の子どもたちで、保存活動に参加してるっていうのは何人か 8 人か 9 人位いるんですけども、その指導してる方が半分こぼしてたんですけども、小学校の時に一生懸命やってくれるんだけど中学校行くと部活忙しくなって高校になるとまた別なことに忙しくなって、高校卒業して進学しちゃうとそれっきり戻ってこない。盆踊りの時期に戻ってきてくれる子は 1 人 2 人いるんだけれども、だから 1 回教えればそういう子も出てくるので、次の学校教育と連携とかですねもう少し工夫もあると思うので、記載の仕方のところですねちょっと一工夫あってもいいのかなというございました。

(委員) あとちょっと前から個人的な違和感なんですが、文化財の保存の基本施策 4 のところで、なぜ向羽黒山城だけ、固有名詞で遺跡名が出てくるのかがちょっと前からずっともう違和感を持ってるんです。国の史跡だって言ってしまえばそれまでなんですけれども、重要文化財はたくさんありますし、国の史跡だけでもっとおかしいことがあって、下郷町は会津西街道っていうのは国の史跡になっているのですけれども、美里町と下郷町の境を越えると国的重要文化財が何も指定のない美里なってしまうという、単なる史跡になってしまふんですね。同じ 1 本の交通路、道なんですけども、ですから、なぜこういうふうなのかちょっとよくわからなかつた。

(教育長) 確かにそうですね。固有名詞出さなくても施策として立てられそうですね。

(委員) 遺跡とか史跡とかそういう言い方もありますし、天然記念物もありますしね。いろんなそういう表現ちょっと変えてもいいんじゃないかなと。

(委員長) 美里町はすごく総合型地域スポーツクラブの皆様が頑張って色々な教室をやってくださったっていう印象があって、コロナで最近の事情がわかりませんが少し前は非常に活発にやっておられたという印象があって、体育系の人間からするとそういう印象が強いんですが、そういったところが継続されるような形になるといいなと思う。何かキーワードとかよろしいですか。

(委員) 第 3 期はトップアスリートとかって結構文言てるんですけど、私達はちょっとトップアスリートを呼び終えたんですよ。お金がかかるので。普通に助成金使って何とかんとか、あとは事務局のコネを使って何とかんとか、やはり、来た時に子どもたちともキラキラして、教室に参加してくれていることもあるんで呼びたいんですけどお金の面で呼べない。これそういうのはスポーツ推進委員さんも一緒ですけど、町全体でそういう活動って大事だと思うんです。子どもたちの経験って勉強ばかりではなくて、世界陸上

出場者でその人に教わったとか、そういう経験って大人になっても忘れない経験をえると
いう感じで、一緒に考えて頂きたいなと思う。一応ウォーキング大会とかここに書いてあ
りますけど、やることを前提に消極的な話に聞こえてきたので、ハーフマラソンでもいい
ですけどやることを前提にちゃんと文言を入れていただきたい。

(委員) 4ページの基本施策4の③の「地域との協働による体験活動の充実」で、「児童生
徒が地域で行う活動ボランティア」ってあるんですけど、例えば新鶴小・中のお子さんた
ち「ヤンボラ」ってあるんですが、昔社会教育主事の先生が立ち上げてくださったもので、
今子どもたちが地域の運動会のボランティアの関わりも少なくなってきたので、
何年か前からヤンボラの子どもたちが一生懸命やってくださってるんですけど、例えばこ
ういう中学生とかが地域って言うとうちのクラブも入るんですけど、ボランティアをお願
いすることって可能なんでしょうか。もちろんバイト代なんかはできませんけど、そういう
のもこの児童生徒が地域に出て行う活動に入るんですけど、もし例えば中学校にボランテ
ィアをお願いしたいって言った場合、それは学校ぐるみなのか、学校行事としてのボラン
ティアの中で、地域なのでそういうのも受けてくださるのか。すいません、関係ないん
ですけど。

(委員) どちらかっていうとこちらサイドのご返答ご回答になると思っているんですが、
その部分っていうのが今それぞれの中学校区で進んでいるコミュニティスクールってい
う、地域の方と学校で一緒に進んでいきましょうっていう話の大きな柱だと思ってます。
なので、そういったところでお話を委員の皆さんとしていく中で、いいよねって言ってで
きるよねってなっていくと、実現していく可能性もあるんだろうなというふうには思って
ます。

(教育長) ここで想定しているのは、基本的にはその学校の教育課程の中で、取り組みま
しょうということで言ってるわけですが、今委員におっしゃっていただいたようなもの
のっていうのは実際できることだと思ってます。ですから私の地元でもかつて中学生だと
かが町民運動会も何十人も大々的に手伝ったりとか、普通にやってますんで、そこはもう
学校との連携の中で十分できることだなっていうふうに思いますし、多分学校でこれだけ
で協力できると手挙げてなんて言うと、部活休んでも行くっていう子が多分いると思うん
ですね。さっき言った地域学校協働活動の中の一環としてやってもいいですし、個人的
に手伝いたいと思う子が手伝ってくれる環境があってもいいし、本当の意味で地域とともに
にある学校かなと思います。

(委員長) 打算的なところも含めて大学なんかでもやっぱりボランティアをやったかとい
うのは評価に入ってくるので、高校だとボランティア証明書とかが欲しいっていうよう
な言い方されてるので、何かそういうことを証明していただいたらとかあと我々評価する
ときは継続性があるかどうかで、単発は評価しないっていうような姿勢で、もちろん聞きま
すけども大学生になっちゃうともう単発でも何でもいいので、「今回もボランティア行きました」
って言えることをたくさんして、とにかくたくさんあった方が自分のあり得る「ガ

クチカ」っていうことで学生時代に何に力を入れてあったかっていうようなところで、部活動だけではなくて、ボランティア活動っていうのがありますので、委員おっしゃったようにいろんな形でやれて、保険のところだけが学校サイドとしてはどうやってやるかっていうので、一番簡単なのはボランティア保険とかがあるというようなところが最低限のところなのかなと思うので、うちの大学も積極的に出すように、できるだけ行きなさい、できるだけ地域に貢献しなさいということは、常に私は話はしているので、だから機会があればお声掛けいただけといいのかなと思いますけど、タイミングに本当よるので、そういうところがもっと活発になっていくといいのかなと思います。

(委員) それは完全ボランティアなんですか。交通費も出るので、保険だけありますよという形で。

(委員長) いろんな形があります。全くのボランティアもあります。半分以上はもう全くじゃないですか。学生の場合ですね。自治体が声をかける場合は予算があるケースがあつて、昼食とか、あと交通費の一部っていうのがありますけども、ですので、役所の方には「少しでいいからつけてください」ってお願いはしていますが、勿論それはなしでも行ける範囲で行きなさいとは言っています。

(委員) 少子高齢化といいますか、地域活動推進委員という形で、各地区でスポーツ活動、イベントとか毎年減る一方なんですよ。だからそういう中で無償で言ったらすごく言葉悪いですけども、そういう働き手に報酬等があればすぐ助かるなと思ったものですから。

(委員長) 実は放課後児童クラブを若松で受けるときは、学生に直接頼んでくださいって言って、学生が謝金を受けてます。美里町は私に依頼いただいて、形式上そういう形をとりますけど学生だけでどうですかっていう話をだんだんしていって、それでいいって言っていただいたら、もう学生と直接やってくださいって言う。私はお金要りませんので。実際に子どもと体動かすのは私ではなくて学生なので、そんな形でやってますので、いろんなところで情報交換等できるといいのかなと思います。

(委員) 次回の会議は文章化されたものが出てくるわけですか。

(事務局) はい。

(委員長) だいぶ長くなってしまいましたけども、(2) の施策の体系と展開についてというところはよろしかったでしょうか。それでは、次に移らせていただきます。

(3) の指標案について事務局より説明お願いいたします。

説明者より、会議資料に基づき (3) について説明

(委員長) 資料 3 の方ですね。皆様方からご意見等ございますでしょうか。

(委員) 確認ですけども、1 の括弧二つ目「中学校が身近に感じられましたか」ってのはこれ小 6 対象ですよね。

(事務局) すみません。抜けておりました。その通りでございます。

(委員) それから 3 については、高学年用が出てないんですが。これもあれありますよね。

(事務局) はい。再度提示できればというふうに思います。なるべく多くの対象から指標

をとった方がいいかなというふうに思っておりますが、やっぱり言葉はとか場合に応じて変えないといけないところあるかななんて思いますので、その辺り再度工夫したいなと思っております。

(委員)今までの指標で、現時点でこちらの候補に乗っていないものは、前回の指標であったものが載っていないものは、ここではないんですけど。

(事務局) 例えばですが、現在の第3期の指標である一つ目の「平日の家庭学習時間」は、家庭学習に対して町として施策を何かして家庭学習が上がったかどうかっていうようなものを考えるのはなかなか難しいのかなというようなところで、学習意欲が高まった成果というようなこととして見れなくはないとは思うんですが、やはりそのあたりは新しく提示するようなものに置き換えさせていただくというようなことで考えておりました。

(委員) 例えば今お金を出していただいているWEBQ-Uなんかもその指標としては外していく方向ですか。

(事務局) 実際に施策でお金を使わせていただいているものもあるとは思うのですけれども、その辺りもやっぱり全てを網羅して指標を作っていくようなところ、例えば子ども教育の方でも施策は基本施策がありつつ、生涯学習課の方でいろいろあるわけなんですが、それぞれに対して細かく作っていくことは難しいかなと思っておりましたので、やはり全体を把握する指標として、3つ程度というようなことで考えておるところでございます。それから総合計画の方で上げている指標もございますので、そちらと重複しないっていうようなところも重要なふうに思っておりました。総計の方は知徳体に関わる部分で、知の部分は、ふくしま学力調査の方ですとある程度広い幅広い学年見ることができますので、そちらの方の指標でやっぱり力を伸ばしたかどうか、基準入りしたかどうかではなくて、やはり子ども1人1人が伸びたかどうかっていうようなところでの指標の方を考えさせていただいたところです。徳の部分については、「役に立ちたい」これも全国学調の調査ではあるんですけども、一つだけのアンケートではなくて自己効力感とか成長意欲、将来夢を持つ児童生徒の割合というようなところで、こちらもふくしま学調で見ると、小学4年生から中学2年生まで見ることができますので、指標も単独のアンケートではなく、複数の指標と一緒に合体させていただいて平均値を見ていくというようなことで考えておりました。それから体の部分こちらの方は継続になる部分ではあるんですが、「肥満傾向の割合」というようなところで、ただこれまで小学6年生それから中学3年生というようなことが特出しされて、1学年だけ出ていった数値であったんですが、これについても小1から中3まで全ての数値を持っておりますので、全部の数値で変化の方見ていくというようなところで考えておるところです。

(委員長) よろしいでしょうか。他にご意見等ございませんか。では3は終了で、(4)その他協力お願いいたします。

(事務局) 事務局からは、特にございません。

(委員長) では、以上で本日の協議事項は全て終了しましたが、委員の皆様から全体を通

してまたそれ以外の件についても、何か質問やご意見はございませんでしょうか。（意見なし）それでは以上をもちまして本日の協議は全て終了いたしましたので、進行を事務局へお返しいたします。皆様のご協力によりスムーズに協議を進めることができました。誠にありがとうございました。

4 その他

（1）次回策定委員会の開催日程について

- ・11月上旬～中旬で委員長と調整の上決定

（2）その他

特になし

6 閉会

以上、開催記録として報告します。